

1 実施日時・場所

- ①令和7年11月3日（月・祝）
沼津っ子ふれあいセンター（ぽっぽ）（沼津市大手町1-1-3）
- ②令和7年12月14日（日）13時30分から15時00分まで
オーチャード沼津（沼津市新宿町9-5）
- ③令和7年12月27日（土）14時00分から16時00分まで
長泉町文化センター ベルフォーレ（駿東郡長泉町下土狩821-1）
- ④令和8年1月12日（月・祝）13時30分から14時30分まで
カムライフ納米里（駿東郡長泉町納米里405-8）

2 実施内容

(1) タイトル 「地域と中高生をつなぐ芸術 ～感動と舞台をみんなに～」

(2) 内容

中高生をパフォーマンスボランティアとして集め、訪問演奏会と総合芸術祭を行いました。全体を通し、

- ・実施公演数：4回
- ・出演した中高生：約80名
- ・観客数：約250名
- ・参加校・団体数：県東部を中心に10校以上

とたくさんの人を巻き込むことができました。



3 プロジェクトの概要

<テーマ設定>

今まで、Bremenのメンバーは、自分を含め一生懸命芸術に取り組み技術を磨いてきたにも関わらず、生かす場面が少ないと感じていました。一方で普段の生活から芸術に触れづらい方々がいることも知っており、その二つをつなぐことでwin-winの関係を作ることができるのではと考えました。

そこで、以下三つの目標を具体目標とし、芸術と中高生の力を生かしてより良い社会をつくることを活動理念としました。

- 音楽・ダンス・演劇などの舞台芸術に取り組む中高生に発表の機会を提供すること
- 芸術に触れる機会が限られている人々のもとへ芸術を届け、楽しさを共有すること
- 学校や世代の枠を超えた地域の交流を生み、新たな芸術との出会いを促すこと

<イベント実施までのプロセス>

4月に昨年の学校の探究活動で、音響と心理の研究をしていたグループに、新メンバーを加え、5人体制のBremenを結成しました。

ここでドリーム・プロジェクトに応募し、事業の調査や話し合いを通し、活動の方針を決めました。

6月にプロジェクトに採択された後、イベントのスケジュールを決め、必要な準備を洗い出していきました。

7月は、ドリーム・プロジェクトの支援がスタートすることに向けて、すぐに事業を始めるための準備に移りました。ボランティア募集に向けて、募集ポスターのデザインや応募フォームの作成、SNSの開設を行いました。

ボランティア募集のポスターは、募集したいターゲットに合わせ、県東部の中学校・高校や、音楽教室、楽器店に配布しました。

9月から10月にボランティア募集をした後は、各公演の打ち合わせや宣伝に努めました。Bremenの芸術祭は特に入念に準備を行いました。チラシを印刷し、前回の配布先に加えて、小学校や近隣の学習塾、商業施設、他団体の音楽会公演で掲示や配布を行いました。多くの人の目に触れてほしい、という思いから、ポスターではなくチラシとして作成しました。

また、Bremenについてたくさんの人に知ってもらえるよう、Instagramで毎日投稿を続け、1,000人を超えるフォロワーを獲得することができました。Bremenの活動を一番詳しく知ることができるようになっていきます。なお、来年度も活動を継続できた場合は、本アカウントを引き続き広報に活用していく予定です。



<イベント当日>

①第一回ふれあいステージ

この公演は、さまざまな楽器や芸術に触れる機会の少ない幼児や、子育てで忙しく芸術に触れる機会をあまり持てない保護者の方々に、一緒に身近に芸術を楽しんでもらうことを目的として実施しました。

姉妹で出演してくれたクラリネット 2 重奏の「ライラック」から始まり、オカリナの「となりのトトロ」メドレー、子供達が手形をとりその手形を使いその場で作品を完成させていく参加型ライブペインティング、観客みんなでマラカスや鈴など小物楽器を持って演奏した、エレキギターによる参加型ディズニーメドレーの計 4 演目を行いました。

終演後の観客アンケートでも、普段ふれあうことのない楽器を普段中々見られない距離で演奏が聞けて楽しかった、子供達も音楽に合わせて楽しそうに手を叩いたり体を動かしてすごくよかった、参加型は特に楽しそうだった、などの意見をいただきました。

②第二回ふれあいステージ

この公演の目的は、中高生に舞台を提供することと、生演奏を聴きにいけない入居者様に音楽を提供することでした。

以下のような内容を行いました。

器楽三重奏：聖者の行進、見上げてごらん夜の星を、愛の挨拶

ギターと歌唱：マリーゴールド、美しい鱈

ハッピーバースデー演奏

クラリネット、ピアノ：クラリネットポルカ、ジングルベル

ピアノ、ホルン：きよしこの夜、エーデルワイス、私のお気に入り

ピアノ：ルパン三世のテーマ、英雄ポロネーズ

交流会：ケーキを食べながら交流

観客も職員の皆さんも、一緒に歌ったりお話ししたり、非日常を楽しむことができていたようでした。公演終了後、誕生日を祝わせていただいた方が、感激して何度も演奏者へお礼を言っている姿が印象的でした。

運営面では不慣れな点もあり、職員の方にご負担をおかけする場面もありましたが、最終的には「また来てほしい」と言っていました。

③Bremen の芸術祭

中高生にステージに立つ喜びを感じてもらおうと同時に、来場者に多様な芸術に触れてもらうことを目的として、幅広い年齢層を対象に企画しました。

公演内容は以下のプログラムの通りです。



このプログラムも実際に印刷して配布しました。

来場者は140名強でした。出演者アンケートでは「学生だけでステージに立つのは始めてでいい経験になった」という意見が多くありました。来場者アンケートでは「いろんなジャンルの発表を見れて楽しかった」「学生が頑張っている姿に元気をもらった」という声加えて「これからもこういった活動を続けてほしい」という声もありました。

④第三回ふれあいステージ

この公演の狙いは、施設の入居者の方に、普段と違う芸術に触れて楽しんでいただくこと、地域の中高生に、発表の場を提供し、音楽を通じて社会に貢献する楽しさを知ってもらうことでした。

以下のような内容でした。

クラリネット：幸せなら手をたたこう、さんぽ、クラリネットポルカ

ピアノ：エンターテイナー、愛の挨拶、青い山脈

ピアノ：川の流れのように、英雄ポロネーズ

エレクトーン：夜に駆ける、Familie

参加型合唱：上を向いて歩こう、故郷、見上げてごらん夜の星を

ピアノ搬送もあり大変でしたが、無事に公演を行うことができました。入居者様と一緒に歌ったり手拍子をしたりして、みんなで楽しむことができました。運営もスムーズに行うことができ、良い会になったと思います。

4 感想

各期間に関して、メンバー個人個人の感想をまとめました。

<準備期間>

- ホール公演の企画を担当し、リハーサルや本番のスケジュール組みや演出が主な仕

事でした。スケジュールは、各出演者の都合を考慮したうえで組まなければならない、管理が大変だった。また演出に関しては、出演者の要望をできるだけ叶えられるようスタッフの方と打ち合わせを行った。出演者の意図を汲みながらの打ち合わせが大変だった。

- 出演者、施設関係者の方々、観客など、それぞれの目線を考えて、すべての人にとって最適な企画進行を考えることに苦労した。公演回数を重ねるごとに、より良い企画進行ができたと感じる。
- 公演をするにあたりまずは各公演の場所を決めることが大変だった。自分たちで様々な場所を調べ電話やメールをしてやっと決まった。

<ポスター発注・ボランティア募集>

- 10月初めでボランティアが十分集まらず、とても焦ったし開催できるか不安になった。でも他校に電話したり知り合いに頼んだりして、募集締め切りを一週間延長したらふれあいステージに出てくれる人を十分集められたので安心した。自ら積極的に働きかける大切さを感じた。
- ポスターデザインや発注は初めてことで、メンバーで揉めながら時間をかけて完成させた。当時はとても焦り不安だったが、いい経験だったと思う。
- ポスター制作は、知識のない状態でのスタートだったが、メンバーの助言と助けのおかげで自分にとっても納得できるものを制作できた。

<第一回>

- Bremenとして初めての公演でちゃんとやり切ることができるか不安だった。公演中ハプニングはあったものの、子供たちが笑顔で楽しんでくれていて嬉しかった。
- 準備が十分でなかったのが反省点。他のメンバーの姿を見て学んだことも多くあったので自分の将来に活かしたい。
- 出演者が集まらず身内やその関係だけになってしまったのが残念。

<第二回>

- 第一回とは違い介護施設での公演だったため、入居者さんとどういうふうに接するか悩んだ。また音楽会の司会を務めたため、司会原稿のどこを強調するかどのくらいのペースで読むか意識した。

<Bremenの芸術祭>

- 大きなホールを借りてイベントを運営することはもちろん初めてで、お金がかかっていることや出演者に舞台を提供することのプレッシャーが大きかった。当日のハプニングはあったものの無事にやり切ることができてよかった。もしまたホールでの公演を企画する機会があれば、今回の改善点を生かして運営をしたい。
- とてもお金のかかる大きなステージなだけ緊張したが、出演者のわくわくした姿を見て、自分もがんばろうと思えた。至らない点は多くあったが、観客アンケートで

も目的通り「普段知らない色々なジャンルが楽しめた」などの声が多くあって嬉しかった。

- ホワイエ掲示のポスターは時間がない中だったが手分けしてなんとか作業を進めた結果、沢山の人の見ていただくことができ、作ってよかったと思う。
- 普通の公演とは違い、先に場所を決めて環境を決めてから出演者を募集する形だったので調整が難しかったり制約が多かったりかなり苦労したが、最後まで終わってよかった。柔軟に対応してくださったホールの方々に感謝を伝えたい。

<第三回>

- 前回の反省を活かして司会原稿や進行の仕方を工夫したら、これまでで一番スムーズで良い雰囲気の流れあいステージが作れて嬉しかった。自分で計画して演奏した演奏会を楽しんでもらえて、音楽の捉え方がポジティブに変わった。
- 施設の方との触れ合いを通じて、世代間の交流の大切さを学んだ。温かい言葉をたくさんいただき、自分の自信にもつながってとても貴重な経験ができた。

<全体>

- ポスター作成やスケジュール組み、ラジオ出演など、初めてのことばかりでいい経験になったと思う。この経験を将来に繋げていけたらと思う。
- 当初考えていた公演の形や回数からは変わってしまい完璧ではなかったが、関わったたくさんの人から感謝の言葉をいただけて、挑戦して良かったと思った。
- 頑張っている人たちを全力で支える仕事に、とてもやりがいを感じられた。また、たくさんの人と触れ合う中で多角的な視点を養うことができた。
- 自分だけでは絶対に成し遂げることができなかった。メンバーや関係者の皆様、この活動を応援してくださったすべての方に感謝を伝えたい。
- 中高生の力を生かすことをアピールしていたが、結局事務室の人に会計や発注などの補助やアドバイスをいただいたり、他団体の大人の方が宣伝に協力してくれて、大人の力もたくさん借りた。そもそもポスターの印刷やホール代などはこのプロジェクトがなければ払えなかったことから、支援してもらったありがたみを感じた。
- 自分たちの力だけではなく今協力してくれた事務室の方、家族、学校の先生、そして何より地域の人々の支えがあってこそその活動だった。迷惑をかけたことも多かったが、改めて関わってくれた全員に感謝をしたい。
- 定期的な Instagram 投稿はかなり大変だったが、Instagram に力を入れ、宣伝の幅を増やすことができてよかったと思う。
- 長い期間、毎週通話で会議を行ったのは大変だったが他のメンバーにも沢山助けてもらって最後まで活動できてよかった。
- 様々なジャンルの出演者が集まるので様々な価値観や自分たちの知らない前提条件などがあり、それぞれの出演者に合った準備をしそれぞれの出演者の要望にできるだけ沿うのが難しかった。